

令和5年度 学校関係者評価書

学校園名 附属世田谷中学校

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
<p>学校運営</p>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用による定型業務効率化も教職員の負荷低減策として有効と思われる。今後も ICT 機器のさらなる活用を進め、業務の円滑化を進めてほしい。 ・ 学校組織としての機能を高めるには事務の方たちの連携は重要である。組織を機能させる方法をより一層検討してほしい。 ・ 職員の業務内容の質を向上させる視点から、働き方改革を検討してほしい。 ・ 非常勤職員等(同窓会員を含む)の採用強化を促進するべきではないか。 ・ 教職員に過負荷となりすぎて、結果的に生徒に目が行き届かないというような状況に陥らないよう、目標設定・課題の優先順位をつけて、断捨離を実行してほしい。 ・ 不登校生徒に対して、きめ細やかに対応して生徒、保護者の理解が得られるように努力されている。 ・ 具体的にどのような取り組みが行われているかもう少し説明が欲しい。 ・ 生徒が希望をもって学校生活を送れるように、生徒一人一人への理解をより一層深め、それに即した指導を実践されることを期待する。 ・ 不登校生徒への対処方法等につき外部専門家を招き運営委員会メンバー及び学年・学級担任を中心に研修をしてはどうか。 ・ 校舎の老朽化への対応が遅れている。生徒や職員の事故が発生しないよう定期的な校舎の点検は、実施されていると考えるが、丁寧な点検と修理等の対応を今後も願う。 ・ 施設・設備の老朽化に関しては、保護者・生徒のアンケート結果でも、明らかな劣後項目となっており、改善対応策が急務と思われる。公的予算のみでは、立ちいかぬ部分が多々あるのが実情であると認識しているので、目的を明確化したうえでOB/OG、保護者を含め、寄付金を募るというアプローチも検討の価値があると思う。 ・ より多くの教員の意見を学校経営に反映する具体的な手段の一つとして運営委員会メンバー以外の教員をアドホックにグループ分けしテーマを決めて意見交換するようなワークショップを試みてはどうか。 ・ 教員のウェルビーイングを把握・担保する一つ的手段として外部カウンセラーによる全教員に対する個別面談を年一度実施してはどうか。
<p>教育活動</p>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動全般については、保護者・生徒のアンケート評価は安定的に高く、充実した学校生活を送る生徒の多さがうかがえる。 ・ 行事等の精選、改善に取り組む中で、生徒の主体的な取組や学びを大切にしている。困難なこともあると思うが、今後も継続を期待する。 ・ 生徒理解を基にした授業展開の構成を検討して質の高い授業を実践されることを期待する。 ・ 社会に出ても通用する能力形成を目指した教育を実践して貰いたい。 ・ いじめについての生徒一人ひとりの人権・自己意識を更に高めるため外部専門家による学級単位でのロールプレイ、ディスカッション等を含むワークショップを実施してはどうか。 ・ 生徒のアンケートによると「困ったときに相談(できそうな)できる先生がいますか」の設問に対する評価が相変わらず相対的に低いので、どうすれば生徒との距離感を縮められるかを教員と生徒で話し合う場を設けてはどうか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や生徒会組織と教職員全員が、意思疎通を十分に図ることができるような教育活動の工夫を、より一層推進していけば、今まで以上に円滑な教育活動が展開されるようになると思う。 ・いじめ発生の未然防止のため、特に、自尊感情を育成する教育を推進してほしい。 ・保護者・生徒のアンケート回答によると、学校の ICT 環境についての評価は相対的に低い結果がみられるため、ICT 環境やその教育活動への活用については、省察が必要ではなからうか。
<p style="text-align: center;">研究活動</p>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続された研究が着実に進んでいると考える。特に、教科横断的な視点を取り入れられた研究は、生徒を取り巻く社会の実態を踏まえた中で生徒の成長を促す視点からも重要であると思う。今後の取組を期待する。 ・設定された学校研究テーマ「情報活用能力を育むモデル単元の開発－資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して－」は、興味深い。 ・一橋大学では新学部として、従来の縦割り領域学習・研究を越えた横串での連携・学びによる環境・社会・経営課題等の解決を目指す能力を育成しようとする試みが行われており、これは本校で研究課題として掲げて頂いている学校研究テーマと通じるものがあると思われる。 ・東京学芸大学の附属学校としての立場を生かし、大学や附属小学校、他の附属中学校、附属高等学校との連携を生かした研究活動を推進し、成果を出されることを期待する。
<p style="text-align: center;">学生の教育・支援活動</p>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では教職の魅力を感じ得るように教育実習を実施されている。その際、実習生の不安を取り除き、実習の成果が上がるように、本人の考えをよく聞きながら指導されることを、より一層推進されることを期待する。 ・前途有為な教員を是非とも育成願いたい。何よりもまずは、生徒が好きになること、正面から生徒たちと向かい合うことを身に付けてもらいたい。 ・「大学と連携した教育研究と教育実習を実施し」とされている。この点について、毎年度の学校運営において、どのような連携がなされ、深めてきているのか。
<p style="text-align: center;">社会貢献活動</p>	<p>評価 A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職教員研修、世田谷区における教科研究会の開催などが積極的に行われている様子がみてとれる。 ・大学と連携した現職教員研修を推進されることを期待する。 ・現職教員研修の共催等を通じ世田谷区教育委員会との連携をより深く地域における教育機関のリーダーとして更なる貢献を期待する。 ・他方で、学校経営計画による限り、貴校における社会貢献活動はもっぱら「教員による」活動だが、中学校であれば生徒が地域・社会・社会と繋がり、学びつつ年齢相応の役割や責任を果たす意義も大きいだろうと思う。